

資料図書室

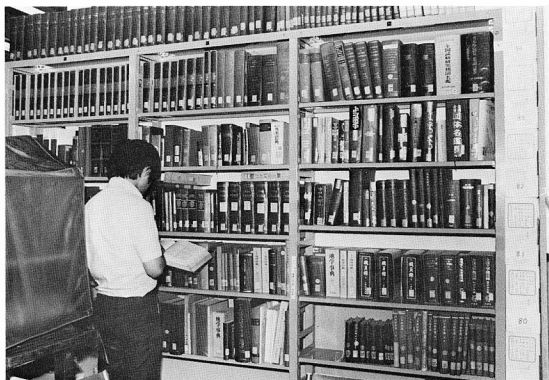
鴨居古潭石層(變成岩)が配されている。荒削りの地質図ではあるがこれが最初の日本地質総図となった。

ナウマン(E. Naumann)の建議によって明治11年に内務省地理局に設置された地質課(後の地質調査所)では日本の地質の全貌を早急に把握するため縮尺20万分の1と40万分の1の全国地質図幅調査を計画し明治13年からこれを実施した。しかしそのいずれにも北海道は除かれていた。ライマンの地質図があったからである。20万分の1地質図幅の第1号「伊豆」が刊行されるのは明治18年であるがその担当者はライマンの弟子の西山正吾であった。

ライマンが採取した北海道の化石はその後横山又次郎や神保小虎によってドイツで詳しく研究された。これが日本における本格的な古生物学研究のはじまりである。明治22年神保小虎はライマンの北海道地質図を改訂した。しかしライマンの「日本蝦夷地質要略図」は炭田開発の指針となったばかりでなく日本の地質学発展の端緒を開いたという意味からも今日なおその価値を失っていない。



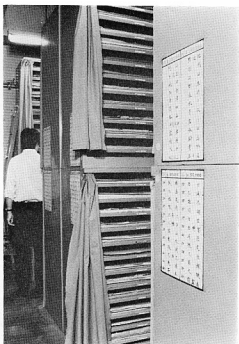
① 図書室 新刊雑誌架



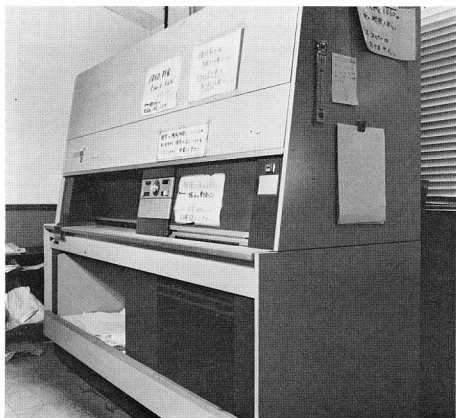
② 図書室 参考書架



③
 図書室
 ロシア語図書雑誌架



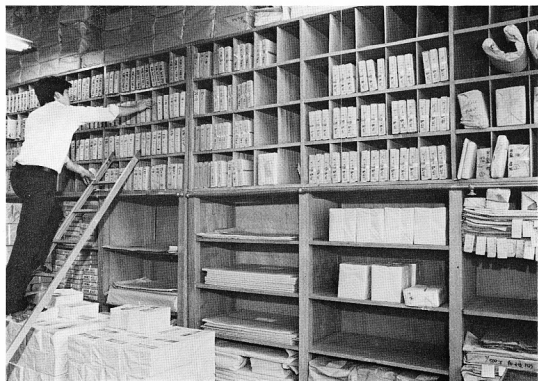
④
 図書室
 地質図書類保管庫



⑤
 図書室
 地図用ゼロックス
 1860型（縮小可能）



⑥ 資料室 スクライパー室



⑦ 資料室 月報 報告書等保管庫